

## 一般部門

# 優しい魔法

かきもと きよみ  
【和歌山県・柿本清美】

一般部門  
入選

五歳の次男が心臓の手術を受けることになった。初体験の入院に興奮気味の次男は親の心配などつゆ知らず、棚付きベッドによじ登り、制止など聞かずに病棟を走り回る。その背中に「こらあ! 廊下は走らない!」と看護師さんの声が響く。なんともにぎやかな入院生活の幕開けとなった。

ところが、こんなに腕白な次男でも、さすがに手術の前日ともなると急に無口になり、看護師さんが手術着のサイズを合わせに来てくれたり、スケジュールの説明に来てくれたりするたびに無理なことと言って困らせたり、甘えてみたり、すねてみたり。私もすっかり手をこまねいて見ているだけになってしまった。

そんな次男の様子を心配して、一人の看護師さんが現れた。手には「たんけんちず」と書かれた紙とシールが握られている。「よし、今から広い病院の中を探検しに行こう」。

次男は『探検』という言葉にパッと目を輝かせると「行く!」とベッドから跳び降りた。「じゃあ明日、恭ちゃんの身体に魔法をかけてくれる、手術室やICUがどこにあるか探しに行きまあす。見つけたら探検地図にシールを貼っていくよ」

そう言うと看護師さんは「しばらくお預かりします」と私に頭を下げ、次男とともに探検に出発した。そして数十分後、次男は飛び切りの笑顔で戻ってきた。看護師さんの機転のきいたアイデアが、次男の硬くなった心を解きほぐしてくれたのだ。

手術当日。次男は自分の足でしっかりと歩き「こっちやで」と、手術室まで私たちを先導してくれた。その上、別れ際には笑顔で手まで振ってみせ、かえって私たちの胸を締めつけた。

みんなに優しい魔法をかけられた次男は、今、元気いっぱい走り回り、春の入学を心待ちにしている。